

科学技術人材多様化ワーキング・グループにおける共通認識
(技術者の育成について) (案)

令和 7 年 ~~5~~ 6 月 日
科学技術人材多様化ワーキング・グループ

1. 技術者育成の目的と意義

- ・ 広く適用されている原則に関する高度な知識を理解し、応用することのできる優れた技術者は、複合的な問題の解決に対して実践的な観点から対応することができる高度専門人材であり、十分特定された技術課題を処理するテクニシャンや科学的原理を探究する研究者等に期待される役割との違いがあることを認識する必要がある。
- ・ 複雑化する社会課題や国際情勢を背景とした、課題解決に貢献する科学技術・イノベーションへの期待の高まりとともに、その創出の一翼を担う技術者に対する期待の高まりを踏まえ、質の高い技術者の育成・確保や、多様な場での活躍促進に向けた取組を戦略的に推進していくことが重要である。

2. 議論の対象とする「技術者」「技術職員」

① 技術者

- ・ 上記目的を踏まえ、本ワーキング・グループにおいては、最先端の科学的知見の活用や革新的な科学技術・イノベーションとなる製品・サービス等の創出、これらの研究基盤を担う高度専門人材を技術者とし、議論の対象とする。
- ・ 具体的には、産業界において事業部や研究所等に籍を置きながら新たな製品・サービスの開発研究に従事する人材や、アカデミアにおいて技術の実用化に向けて課題解決に貢献する大学等の教員人材を想定する。

※ この際、最先端の科学的知見を活かした革新的な科学技術イノベーションを創出する際には、アカデミアと産業界における活動とが密接に関係することになるため、さまざまな職種に存在するこれらの人材について、技術者かそうでないかを明確に区別することは困難であることに留意する必要がある。

② 大学における技術職員

- ・ 大学等において研究設備・装置の整備・共用・高度化等を担う技術職員を本ワーキング・グループにおける議論の対象とする。

※ 技術職員の中には、研究戦略に基づく施設・設備・機器の共用・高度化に係る諸調整をはじめ、学内の技術職員の育成や体制整備等、研究開発マネジメン

トに関する業務を担う場合があり、同人材は研究開発マネジメント人材を兼ねることもある。

3. 技術者・技術職員に関する現状と課題

① さまざまな専門性の融合・相互理解（流動及び協働）

- ・ 社会課題が大きく複雑になるにつれ、考慮すべき事項も多岐に渡り、総合知の必要性も認識されつつある。複合的な問題の解決に強みを有する技術者が、これまで以上に、広範な専門性を結び付け、新たなイノベーションを創出していくための環境整備や文化醸成が必要である。
- ・ 具体的には、産学官による共同研究や人材交流を促進し、科学技術に関係する人材が相互理解を深め、互いの専門性を補完するとともに、そうした人材を育成する仕組みを新たに構築する必要がある。

② 技術者の能力の維持・向上（教育、認定制度、継続研鑽）

- ・ 科学技術の進展が著しく、人々の生活に与える影響も増加する中、技術者の資質能力（コンピテンシー）も常に更新されることが求められる。
- ・ 高等教育における技術者養成カリキュラムの継続的な見直しや技術者自身の継続研鑽を担保するため、JABEE や技術士をはじめとする認定制度の活用や、技術者の職場やコミュニティにおける研修・勉強会等を推進する必要がある。

③ 技術職員の活躍促進（研究基盤の確保・底上げ）

- ・ 科学技術の推進に当たっては、特に、最先端の研究施設・設備・機器等の管理・運営や活用等が不可欠であり、これらの運営管理等業務を担う行う技術職員の活躍促進が重要となる。
- ・ この際、単なる施設・設備・機器の維持管理にとどまらず、施設・設備・機器の開発高度化・購入等における企業との技術的観点からの調整、施設・設備・機器の選定・設置・共用における経済的・法規的観点からの調整等、さまざまな専門的知見が期待される職種であることを踏まえる必要がある。
- ・ その他、技術職員の業務内容は各大学の状況に応じて多様であり、各大学の状況に応じた適切で柔軟な技術職員の活躍促進に向けた検討が必要である。

以上